

住民主体のまちづくり

No.48 2017. 12

編集発行：車尾まちづくり推進会議 事務局

■ 米川清掃の実施

去る11月5日(日)午前9時から、環境美化の取り組みとして米川清掃を行いました。

昨年は直前に震度6弱の鳥取県中部地震が発生し、大きな余震が続く恐れがあり、中止しました。

今年は快晴に恵まれ参加した地区民が米川沿いの観音寺新町1丁目緑地公園に集合して、上流に進む班と下流に進む班に分かれて清掃活動に汗を流しました。この活動は車尾地区が米川最上流にあり、農作物だけでなく生活に密着した「地域の水」として防火、景観形成、親水、生態系や水質保全等の役割をよりよく果たすために行うものであり地区の課題でもある環境美化の取り組みとして、102名の方が参加されました。驚いたのは薄型テレビやパソコンが投棄されていたことです。



■ 特殊詐欺被害を防ぐ

地域モデル検証事業 (その9)

特殊詐欺防止を防ぐために地域でやってほしいこととしては

全体では「特殊詐欺防止マニュアルを作成し、各戸へ配布する」が67.0%と突出し最多、以下「高齢者世帯には民生委員が今まで以上に訪問する」26.1%、「公民館等に相談所を設置する」24.6%、「特殊詐欺防止講演会・研修会を各所で開催する」14.5%となっています。

性別では、男女ともに「特殊詐欺防止マニュアルを作成し、各戸へ配布する」が最多で、男性が7割弱となって女性の6割半ばに比べやや高い。続く「公民館等に相談所を設置する」、「高齢者世帯には民生委員が今まで以上に訪問する」はともに2割台となっており、男性の方がやや高い。

年代別でも、いずれの年代も「特殊詐欺防止マニュアルを作成し、各戸へ配布する」が最多で、概ね年代が上がるにつれて増加し、70代および80歳以上では7割を超えている。「高齢者世帯には民生委員が今まで以上に訪問する」は50歳未満で3割以上となったほか、当事者となる70代、80歳以上でもほぼ3割となっている。「公民館等に相談所を設置する」は50代で5割弱と高くなっている。

その他の要望事項としては、「気軽に相談できる場所」「銀行、郵便局等にも協力してもらう」「特殊詐欺の際の通報先ステッカー」「民生委員の定期訪問」等が挙げられた。

これまでの調査結果をまとめると ①

事後調査(平成28年12月実施)における、「名前も手口も知っている」詐欺を全体の認知度の高い順に並べると、1位オレオレ詐欺(7月調査80.0%→12月調査86.3%)、2位還付金等詐欺(63.8%→70.6%)、3位架空請求詐欺(57.5%→66.0%)、4位未公開株勧誘詐欺(37.9%→37.4%)、5位融資保証金詐欺(34.7%→33.2%)、6位ギャンブル必勝法情報提供詐欺(27.3%→29.7%)となる。これに「名前は知っているが、手口は知らない」を加えた場合は順位が一部変動し、1位オレオレ詐欺(98.3%→97.8%)、2位架空請求詐欺(91.8%→92.4%)、3位還付金等詐欺(93.0%→90.7%)となって、上位3項目の認知度はいずれも90%超の高いものとなっている。一方、4位以下については、4位融資保証金詐欺(73.4%→72.0%)、5位未公開株勧誘詐欺(74.6%→69.6%)、6位ギャンブル必勝法情報提供詐欺(55.4%→61.8%)と、必ずしも十分な認知度とは言い難い状況です。また、下線付きの項目は、7月の事前調査時点よりも認知度が下がっていることから、既に認知度が高いと目される項目であっても、地域住民に対する継続的な被害防止の広報活動が重要といえます。

自分たちのまちは自分たちで (つくる つなぐ つづける)